

日 時：令和5年6月27日（火）10時00分から12時00分

場 所：四街道市保健センター3階 第2会議室

出席者：

【委員】江崎俊夫（会長）、佐藤光江（副会長）、北林栄峰、中村嘉孝、長谷川睦美、渡部洋、海保智行、調知博、福田三千男

【職員】鈴木陽介市長、荒木寿久社会教育課長、田島衣織課長補佐、安藤響香主事

欠席者：1人（川口一美）

傍聴人：0人

- 1 開会（開会の言葉：荒木社会教育課長）
- 2 会長挨拶（江崎会長より挨拶）
- 3 市長挨拶（鈴木市長より挨拶）
- 4 諮問 ー鈴木市長より江崎会長へ諮問書を交付ー

※鈴木市長退席

- 5 職員紹介
- 6 会議の公開等

江崎会長の議事進行により、下記についての了承を得る。

- ①会議は公開とする。
- ②会議録の作成については、発言者を明記する。
- ③議事録署名人については、押印廃止に伴い、特に署名を求めない。
- ④傍聴者を確認し、傍聴人はなし。

7 議題

江崎会長：それでは議事に入ります。議題（1）「第4次四街道市生涯学習推進計画策定方針（案）について」事務局より説明をお願いします。

田島課長補佐：（下記事項について資料No1に沿って説明）

- ・第4次四街道市生涯学習推進計画策定方針（案）について（前回の会議において、スケジュールの見直しを検討とのご意見があったため、修正した点を中心に説明）

- 江崎会長 : 策定方針(案)につきましては、大方、内容は前回と変わらないようです。スケジュールについては変更があるようです。ご意見、ご質問はございますか。
- 江崎会長 : 第4回目の審議会はまとめということになりますか。
- 田島課長補佐 : 最終確認の印刷前ですね。
- 荒木課長 : パブコメで意見が出た際の回答の作成等、最終確認となります。
- (その他、意見、質問なし)
- 江崎会長 : それでは、この策定方針で進めていくということで(案)を消してください。
- 江崎会長 : 次に、議題(2)「第4次四街道市生涯学習推進計画に取り入れるべき課題について」とその次の(3)「第4次生涯学習推進計画の新たな試みについて」は関連していると思いますので併せて2つについて説明を事務局よりお願いします。
- 田島課長補佐 : (下記事項について資料N o 2、3に沿って説明)
- ・第4次四街道市生涯学習推進計画に取り入れるべき課題について
 - ・第4次四街道市生涯学習推進計画の新たな試みについて(アンケート調査の実施、千葉県の情報提供システムの全庁的な活用について提案)
- 江崎会長 : 資料N o 2、3について併せて説明をいただきましたが、ご意見ご質問はありますでしょうか。
- 調委員 : 確認ですが、令和3年と令和4年に実施したアンケートに含まれているということでしょうか。その結果の解説ということですね。
- 荒木課長 : それぞれアンケート調査を実施した中で、生涯学習に関わる部分を抜き出して、調査結果について説明いたしました。アンケート調査自体はいろいろな項目があります。
- 福田委員 : 令和3年に実施した調査ですが、対象者と調査数を教えてください。
- 荒木課長 : 教育振興基本計画の策定に関わるアンケート調査については、無作為の市民2,000名を対象としています。その他には子どもたちなど、別に範囲を決めて調査科目は違う内容ですが、いろいろな調査をしています。
市民意識調査については、3,000人を対象としています。
- 江崎会長 : よろしいでしょうか。

福田委員 : はい。

調委員 : 市民の意識を高めるための工夫が必要とのことですが、工夫については第4次計画に反映させるということでしょうか。

荒木課長 : 資料にはわかりやすいものを抽出していますが、他にも生涯学習に関する調査があり、参考になるアンケート調査の結果をもとに意識向上のための工夫の検討をしていくよう考えています。

田島課長補佐 : 補足で説明いたします。

新たな取り組みの理念の、市民の評価を可視化するという点について、アンケートを実施している部署において、各事業のアンケートの中に、一項目必ず生涯学習に関して生涯学習事業として満足していますか、という設問を加えたいという意図です。生涯学習をしているという意識づけを、設問を通じてつけていきたいというのが工夫の一つです。

長谷川委員 : 项目的に無いということですよ。

田島課長補佐 : はい。今までなかったもので、全庁的に依頼したいということです。

渡部委員 : ボランティア活動をしている人も調査の対象としていただけないでしょうか。より充実するのではないのでしょうか。

田島課長補佐 : 四街道市にはボランティアセンターがありますので、そちらの事務局と協議し検討していきます。

調委員 : SDGsの17の項目のうちどの項目にあてはまるかを資料に記載しているということでしょうか。番号があったほうがわかりやすいかと。

荒木課長 : 生涯学習の機会を促進するという項目があり一番関連していると考えております。これについての番号は後ほど、記載します。これから計画を策定するにあたり、重要な視点になるので、SDGsへの取り組みについても考えていきたいと思っております。

田島課長補佐 : 目標4の「質の高い教育をみんなに」という項目から考えていきたいと思っています。

佐藤副会長 : これを入れ込むということですね。

田島課長補佐 : そうですね。これをもっと砕いてわかりやすくしていこうと思います。

渡部委員 : あまりなじみがないので、意識していないですね。

長谷川委員 : SDG s ともからめていますという認識でしょうかね。

田島課長補佐 : 参酌すべき計画ですでにSDG s を取り組んでということを謳っていたので、生涯学習はどこに当てはまるのかということを知りやすく、循環する生涯学習の良さを伝えるよう、かみ砕いていい表現にしていきます。

佐藤副会長 : なるべく平たい表現のほうがわかりやすいのではと思います。ヨコ文字があまりないほうがいいですね。

江崎会長 : その他にございますか。

北林委員 : 何を求めて、何を目的としているのか質問です。

荒木課長 : 計画の目標にもなりますが、生涯学習の推進のためには、どうすべきか、満足度など、生涯学習というのを意識してもらおうというのが目標です。

佐藤副会長 : 四街道市独自の方針というところに光をあてて作ってもらいたい。

荒木課長 : 四街道市として工夫できるよう検討します。

北林委員 : 生涯学習という明確なものがないので教えていただきたい。

荒木課長 : わかりづらいので、生涯学習について計画の中で意識づけを推進できればと考えています。

調委員 : アイデアはどこに入るでしょうか。

荒木課長 : 市民にわかりやすく、生涯学習が大事だと思ってもらえるような計画が市の特色となるといいなと考えています。

田島課長補佐 : 審議会にいろいろな分野の委員が集まっていますので、それぞれの委員から特色をあげてもらい、それをまとめ、市の特色につながると考えていますので皆さんのご意見をいただきたい。

長谷川委員 : 5つの視点とは。

田島課長補佐 : 現状ある計画のことで、生涯学習の計画の中の施策にあるものです。

荒木課長 : 第3次計画の視点としており、第4次計画の視点についてはこれからの検討事項になります。

- 江崎会長 : 前は5つの視点で作ったが、今回の新たに策定するものについては、視点を加えたり変えたりすることはありえるでしょうか。
- 荒木課長 : はい。そうです。
- 中村委員 : 市として組織的に関わっていきけるようにそれぞれが連携して幸福感を高めていくことが大切ではないでしょうか。
- 江崎会長 : 力が分散しているのでそれを集めて、市民の方に行き渡るようなシステムの構築が重要ですね。
- 北林委員 : どんな人材が四街道市にはいるのか調べてみてはいかがですか。市の施策にある生涯学習の分野がどのようなことを望んでいるのかをわかりやすく出していくことが大切ではないでしょうか。
- 田島課長補佐 : 四街道の目指すべきものは次回の会議の時に出せるかと思います。市民向けに総合計画で子どもを中心とした施策等、力を入れて四街道らしさを出したいという意見があります。それらを示しながら、具体的に生涯学習を進めて行きたいというお話ができるかと思います。
- 江崎会長 : 資料N o 2、3についていろいろなご意見等いただいたことについては関連の部署に伝えていただければと思います。
では、議題(4)「第4次生涯学習推進計画に向けて」について事務局より説明をお願いいたします。
- 田島課長補佐 : (下記事項について資料N o 4に沿って説明)
・資料の修正箇所について(「指標」の現状値が令和5年度末となっているが令和4年度末へ修正、また、「目標値」が令和10年度末となっているが令和9年度末とし、計画立案時にわかる実績を用いることとする)
・第4次生涯学習推進計画策定に向けて
- 江崎会長 : 資料N o 4についてご説明をいただきましたが、ご意見ご質問はありますでしょうか。
- 江崎会長 : 指標としてあげることができない事業は空白のままでもいいのでしょうか。
- 田島課長補佐 : なるべく書いてもらいたいが書けないところは空白のままになると思います。
- 調委員 : 達成度が見える化できていいかと思いますが、日数や総数だけでなく達成できたかどうかは市民がそう感じたかどうか大切ではないでしょうか。

江崎会長 : より客観的な評価が大切ですね。

田島課長補佐 : 資料3のアンケート調査を利用し、各事業で市民向けにアンケートを実施することで満足度を数値化し、新たにお示しできると思います。

佐藤副会長 : 90の全ての事業に行うのですか。

田島課長補佐 : 市民の方が参加する、アンケートのとれる事業は限られてくると思うので、そこに対して依頼します。

佐藤副会長 : アンケートとは生涯学習というところにすべてを向けるととらえていいのですか。

田島課長補佐 : はい。そうです。

江崎会長 : その他、ご意見ございますか。

長谷川委員 : すでに地域には学べる場所や機会があるので、それを発信するようなシステムを構築できるといいですね。

田島課長補佐 : 県の千葉リスネットの活用していけるよう進めて行きます。市の情報を載せて発信していけるように考えています。

江崎会長 : その他にございますか。形式的としてはこのような形で進めて行くということですね。

田島課長補佐 : ご承認いただければ、このような形で庁内への調査等を進めて行きます。

北林委員 : 指標とは、新しい指標として計画に入れ、毎年同じような形で9年度末まで調査して行くということでしょうか。

田島課長補佐 : 毎年、進捗状況調査というのを各事業で行っており、その結果が最終的に5か年でどう推移したかという見解になっていきます。全ての事業というのは難しいので、いくつかピックアップしてまとめていきます。

江崎会長 : 全体を通して、その他にご意見等ございますか。

調委員 : 第3次計画の総括はどこに入ってきますか。

田島課長補佐 : 今回の調査を終えたときにこれまでの進捗や経緯の概略をまとめて、総括として、審議会へ提出させていただいて、ご審議いただこうと考えています。

福田委員 : 資料3の市民の評価を可視化するというところの設問がありますが、生涯学習について非常に格調が高く答えるのに躊躇してしまうと思いました。また、その回答に「わからない」とありますが、その意味について、まったくわからないという意味でしたら「不満がある」となるのではないかと思いますし、満足でも不満でもないという意味でしたら、「わからない」で問題ないと思います。

田島課長補佐 : 設問について、難しい表現になってしまっており、回答の選択肢についても「わからない」というのが迷う表現となってしまっているとのことです。もう一度、見直し検討していきます。次回、報告いたします。

江崎会長 : 他にございますか。特にないようですので、以上で議題を終了いたします。それでは議長としての任を解かせていただきます。

8 その他

荒木課長 : 次回の審議会は8月頃を予定しております。

9 閉会（閉会の言葉：荒木社会教育課長）